

地域資源を生かす戦略で、 地域を元気に

はじめに

鹿角市は、北東北(青森県、秋田県、岩手県)のちょうど真ん中に位置し、北に紺碧の十和田湖、南に雄大な八幡平を擁する山紫水明の里です。1300年の歴史を誇る尾去沢鉱山をはじめとする鉱山遺産や数多くの温泉・景勝地、豊かな農産物に恵まれた観光地でもあ



花輪スキー場ジャンプ台(右奥にもう1基)

り、「人・もの」が行き交う交流拠点を目指しています。

スキーと駅伝のまちづくり

本市では、今、恵まれたスキー環境と、長きにわたり受け継がれてきた駅伝競走の伝統を生かし、これらスポーツを地域振興に結び付ける「スキーと駅伝のまち」を推進しています。定住人口が減少する中、全国規模のスポーツ大会や合宿を通じた交流の拡大は、本市の地域資源を生かした重要な地域活性化戦略であると考えています。

市内にある花輪スキー場は、これまで、ジャンプ、クロスカントリ、アルペンの各競技を同一会場で開催できる国内有数のスキー場として高い評価を受けてきました。平成24年度から3カ年で県と協働で取り組んでいる「ス

キーと駅伝のまち、賑わい創出プロジェクト」により、さらなる施設環境の整備と競技力の向上対策を進めています。本年2月に開催された「あきた鹿角国体2013」を前に、既存のヒルサイズ84mのジャンプ台をFIS(国際スキー連盟)のノーマルヒル公認規格を満たす86mに改修するとともに、新たにK点30mのスマールヒルを整備しました。これにより、K点20mからヒルサイズ86mまで、サマー

ジャンプにも対応できるジャンプ台を4基備える国内唯一のスキー場となりました。関係者からの高い評価を下に、今後も全国規模の大会の開催や誘致を進めるとともに、平成25年度からは、市教育委員会に指導員を配置し、ジュニア期からの一貫指導体制を強化するなど、地元選手の競技力向上にも



首都圏での「鹿角いいね! キャンペーン」

一層力を入れ、「ノルディック競技の聖地」を目指していきます。

また、駅伝についても、「日本一過酷な真夏の駅伝」として知られる「十和田八幡平駅伝競走全国大会」から各地区で行われる市民レベルの駅伝まで、駅伝大会が多く開催されている土地柄であり、同プロジェクトにより、花輪スキー場に隣接する総合運動公園内に天然芝仕様のアップダウンコースを整備し、トレーニング環境の充実を図りました。

ブランドアップ戦略を推進

本市が地域活性化戦略として掲げるもう1つは、「ブランドアップ戦略」です。

ブランドとは「長く信頼されるもの」であるため、継続的に資源を生かすためには、単なる地域資源の活用のみではなく、それを生かすことができる人材が重要と考え、平成22年度に策定した「鹿角ブランドアップ戦略」では、人材育成「なんでもできる鹿角」「チャレンジできる鹿角」に主眼を置きました。現在、その推進役となるプラットホームをкаづの商工会内に設置するとともに、3つのリーディングプロジェクトを民間主導で進めており、まずは、この成功を皮切りに戦略目標の達成に取り組んでいく考えです。

また、ブランド化を目指す商品の開発や豊富な資源のPR強化も積極的に進めています。特に、平成24年は、全小中学校での「夢の教室」実施などご協力いただいているJFA(公益財団法人日本サッカー協会)との連携により、「鹿角いいね! キャンペーン」と題して、首都圏主要JR駅で自治体初とな

待望の文化交流施設で まち中のにぎわいを創出

中心市街地のにぎわい創出も大きな課題です。

市街地で大きな人の流れをつくっていた中核病院が老朽化に伴う改築のため、平成22年5月に郊外に移転することとなり、大規模な空き地の発生による空洞化が懸念されました。このため、市では、



平成27年4月開館予定の「(仮称)学習文化交流施設」の外観イメージ

中心市街地の機能の充実を図る上で当該エリアに必要な機能について検討を進め、「つどう ふれあうにぎわう 文化交流の社」と位置付け、十数年前から建設を望む声があった文化ホールのほか、老朽化の著しい図書館と市民センター、さらには子育て支援施設、交流広場の機能を有する複合施設(仮称)「学習文化交流施設」を整備することとしました。

3年にわたる市民ワークショップの開催を通して、施設の実施設計などにそのニーズを反映したほか、管理運営面においても市民が主体性を発揮するための仕組みを検討しています。

プロフィール

- ◆ 面積 707.34km²
- ◆ 人口 3万4333人
- ◆ 世帯数 1万3369世帯

〔将来都市像〕「笑顔がつながり活力を生むまち鹿角」

〔まちの特徴〕豊かな自然に囲まれ、縄文の古より続く悠久の歴史と伝説の里

〔特産品〕きりたんぼ(発祥の地)、かづのホルモン、特産米淡雪(まち、かづの北限の桃、りんご)、日本短角種か



鹿角市長 児玉 一



づの牛、八幡平ポーク、松館しほり大根、新テッポウユリ、トルコギキョウ
〔観光〕大湯環状列石(特別史跡)、尾去沢鉱山(史跡)、鹿角観光ふるさと館、鹿角市中滝ふるさと学舎、国立公園八幡平(山頂、大沼)、八幡平温泉郷、湯瀬温泉郷、大湯温泉郷、湯瀬渓谷
〔イベント〕大日堂舞楽、花輪ねぶた、大湯太鼓まつり、花輪ばやし、毛馬内の盆踊、きりたんぼ発祥まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

人と人との「絆」を大切にすまち

はじめに

武蔵村山市は、新宿副都心から約30km西側、東京都のほぼ中央北部に位置しています。

人口は、約7万2000人。面積は15・37kmの小さな市ですが、市北部を東西に連なる狭山丘陵は、市内外から多くの人が訪れる「東京都立野山北・六道山公園」や「武蔵村山市立野山北公園」があります。市南西部には「横田基地」、市中央南には日産自動車村山工場撤退後の跡地に都内最大級のショッピングセンターが立地しています。狭山丘陵の麓から南には武蔵野台地が広がり、宅地化が進む中にも、まだ多くの畑、果樹園が存在し、野菜、果物を中心にいろいろな農作物が栽培されています。特にリンゴ、ミカンは、東京都で

有数の生産量を誇っています。また、多摩川水系の残堀川と荒川水系の空堀川の2本の一級河川が、市の北側から南東に向け流れています。

歴史的に見ると、武蔵野台地の西辺は古くから「村山郷」と呼ばれており、地名の起こりは、狭山丘陵の峰々を指した「群山」がなまったものといわれています。平安時代末期には、武蔵七党の一つである武士団がこの地に勢力を伸ばし「村山党」を名乗り、鎌倉時代に書かれた「吾妻鏡」にその名が登場し、初めて村山の名が刻まれました。江戸時代には、中藤村などの4村が成立し、以後、幾多の変遷を経て、大正6年に各村が合併し、村山党の名にちなんで「村山村」となりました。

そして、昭和29年町制を施行し、その後、都内最大級の都営村山団

地の建設などに伴い人口が急増し、昭和45年11月3日、市制施行により「武蔵村山市」が誕生しました。

都市近郊の住宅都市として発展

狭山丘陵に抱かれた本市は都心近郊の緑豊かな住宅都市として、急速な発展を遂げております。本市は、東京都で唯一軌道交通のない市で、多摩都市モノレールの市内延伸の実現は長年の悲願であります。また、名車「スカイライン」で知られる日産自動車村山工場が撤退したこともあり、近年では、多摩都市モノレールの市内延伸も見据え、工場跡地の計画的な活用や市内中心部における土地区画整理事業などにより、快適で、文化的な住みよいまちづくりを進めています。



多摩都市モノレールの市内延伸は7万2000市民の悲願

狭山丘陵の恵みが人々の憩いの場に

今もなお、豊かな生態系がはぐくまれる狭山丘陵は、人々の憩いの場所になっています。まさに「武蔵村山らしさ」を演出する貴重な財産です。その豊かな自然を生かし、村山温泉かたくりの湯や都立公園としては最も大きい「野山北・六道山公園」などの施設があります。公園には、カタクリの群生地やホタルの生息地、里山民家といった、

昔をしのぶ里山の風景が広がっています。

地域ブランド認証商品

地元産の材料を使用し、伝統的な手法で製造、加工された商品や地域の特性を生かして発掘・創造された商品を地域ブランドとして認証し、これを広くほかの地域に発信し、ブランドイメージの定着および向上を図ることにより、商品の付加価値を高めて、市の活性化と魅力の向上を図っています。地域ブランドとして認証された商品には次の10品目があります。「小松菜入り豆乳おからドーナツ」「自家製アイスクリーム」「村山お茶食



市役所市民駐車場を会場に繰り広げられる「Food (風土) グランプリ」

パン」「てづくり村山ゆでまんじゅう」「東京狭山茶」「こまつな豆腐君」「手づくり村山さんクッキー」「翔の手作り狭山茶だんご」「村山かてうどん」「村山げんこつシチュー」。いずれも、一度はご賞味いただきたい逸品です。また、地域の絆を強め、地産地消を推進するため、本市では恒例となった「Food (風土) グランプリ」を開催しています。

地域に飛び出す職員を応援する市役所を目指します

市の活性化のためには、市職員もその一翼を担い、公務とは別にプラスワンで、自分の時間を活用して、一住民として役所を飛び出して、社会貢献活動、地域づくり活動、自治会、消防団、PTAなどの活動に参加する必要があると考えます。そこで、「地域に飛び出す公務員を応援する首長連合」に加盟し、「地域に飛び出す公務員」と、その公務員を応援する首長として活動をしています。

本市では、まさに来年度導入を予定している職員地域担当制をはじめ、消防団活動や自治会、PTA活動などへの職員参加を積極的に推進していることから、その活

動を通じて、まちを盛り上げ、市民の皆さまと心を通わせ、「人と人との絆」をはぐくみます。

市長を先頭に、職員が「日本一」働く市役所を目指します

今後とも厳しい財政状況が予想されますが、常に希望を持ち続け、行財政改革をさらに推進するとともに、今日の厳しい社会情勢の変化に適切に対応し「人と人との絆を

大切にしたい。市民が安心・安全に生活ができ、希望の持てる明るく元氣な武蔵村山市」となるよう、生活重視の市政運営に取り組んでまいります。

市長を先頭に、まちへ現場へ、市民に愛され、市民との対話を重視し、職員が「日本一」働く市役所を目指し、そして総力を挙げて、市民の皆さまのために、全力で仕事をししていくことをお誓い申し上げます。

プロフィール

- ◆ 面積 15・37km²
- ◆ 人口 7万2028人
- ◆ 世帯数 2万9732世帯

〔将来都市像〕「人と緑が織りなす夢ひろがるやさしいまちむさしむらやま」

〔まちの特徴〕「狭山丘陵をはじめとする豊かな自然や文化、産業を生かした個性ある都心近郊の住宅都市」

〔特産品〕リンゴ、ミカン、お茶、小松菜、村山かてうどん、村山大島紬(東



武蔵村山市長 藤野 勝



京都指定無形文化財

〔観光〕東京都立野山北・六道山公園(カタクリ群生地、里山民家、あそびの森など)、武蔵村山市立歴史民俗資料館、村山温泉かたくりの湯、観光みかん園、ひまわりガーデン武蔵村山

〔イベント〕村山デエタラまつり、武蔵村山市観光納涼花火大会、Food (風土) グランプリ

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は平成25年3月1日現在の「住民基本台帳」による。

日本人の心地良いふるさと 伊豆市

多彩な魅力あふれるまち

「伊豆半島全体が一つの大きな公園である。一つの大きな遊歩場である。つまり、伊豆は半島のいたるところに自然の恵みがあり、美しさの変化がある」伊豆の自然と風土をこよなく愛した作家、川端康成は『伊豆序説』にこう表しま



駿河湾越しの富士山

した。伊豆市は伊豆半島の中心部に位置し、開湯1200年を誇る修善寺温泉、文学の郷湯ヶ島温泉、夕日と恋人のまち土肥温泉など、自然と文化の香り溢れる里山、里海です。

天城連山、清流狩野川、駿河湾越しの富士山など、季節を変えてさまざまな色を見せてくれる風景は、旅人を心地良く迎えてくれます。

本物を大切に かっこいい大人

各国で好評を博した井上靖原作の映画『わが母の記』は、伊豆の美しさを随所に見せてくれます。伊豆半島ジオパークの重要なサイトである滑沢渓谷、日本一の中伊豆の山葵田は、本物が残っているが



小学校の給食にも出される特産品の山葵

ゆえにロケ地として採用されたものです。このロケでは、地域の本物が俳優さんたちを支えました。誇り高き山葵生産者は、出掛けの際には採れたて山葵と専用おろし器を懐に忍ばせます。宴席に練り山葵が添えられていようものなら、すかさず懐から山葵を取り出し、有無を言わず同席者の器に載せて回ります。本物の山葵は辛

香ります。時には小学校の給食のおかずの上に。そして俳優さんたちのロケ弁に。山葵は本物でなくてはならないのです。山葵のみならず、もう一つの特産品である椎茸も和食では主役を引き立てる名脇役。伊豆の職人たちは、最高の脇役を演じるかっこいい大人たちです。

ふるさとへの愛を伝承する かっこいい大人

平成24年末、あるイベントが開催されました。「まるごと茅野ポスター展」。主催者は「茅野塾」。茅野という小さな地区に住む老若男女で組織された団体です。塾の皆さんが作成したポスターを展示するというごく単純なものでしたが、モデルは地元住民自身。背筋をピンと伸ばして畑を見つめるおばあちゃん。山葵の収穫作業を黙々とこなす親父の背中。慣れない農作業に勤しむ若者。ポスターにはふるさとへの営みや自然が生き生きと

映し出されていきました。「泊りがけで訪れてみたい」「人の温かさが伝わった」といった感想に驚いたのは、「オラっちでいいのかな?」と疑心暗鬼でモデルになった住民たちでした。

三島駅から伊豆半島方向に伸びる伊豆箱根鉄道の終点、修善寺駅。その駅前に「修善寺総合研究所」なるNPOが創設されました。伊豆の玄関である修善寺駅の周辺整備事業に対する意見を集約したり、歴史溢れる修善寺温泉を現代の視点で活性化する活動を行っていま

す。知名度抜群の「修善寺」を真に愛し、新たな時代にどのように生かしていくか、真剣に考え、話し合っているかっこいい若手大人たちなのです。

かっこいい大人に続く 若者たち

修善寺駅北口に市が設置した若者交流施設「gizuru」、ここにはさまざまな若者が集ってきます。筆頭がNPOサブライズ。「影奉仕」というゴミ拾いボランティアを広げ、市内外の中高生や大人たちを巻き込んでいます。代表が名付けた「ポランツォリズム」は、今では大手メディアでも使われるようになり、市内の若者、都内の大学生に呼び掛けた東北支援ボランティアツアーは9回にもなります。

そして、地元伊豆総合高校の生徒たち。南洋から数千万年を掛けてドンブラコと日本列島に流れ着いた伊豆半島は、世界ジオパークネットワーク加盟を目指して活動を始めます。その主役となっているのが伊豆総合高校の自然科学部で、部員の生徒たちは今やジオパークの魅力を広く伝えるジオ



平成24年に開催された「まるごと茅野ポスター展」

ガイドの役を立派に果たしてくれています。伊豆の大自然を模したお菓子「ジオガシ」を製作している「ジオガシ旅行団」とコラボし、「伊豆市下白岩有孔虫化石ヌガー」を完成させるまでになりました。私たちは、ふるさとを愛するかっこいい大人たちこそが、次世代育成の最高の教科書だと考えています。

むすびに

本物をちゃんと知っている大人、本物を真っ直ぐに伝えられる大人、そういう大人は本当にかっこいい。かっこいい大人を目指して未来を見つめる子どもたちが育つまち。本物を大切に伊豆市は、本物を愛する日本人にとっての心地良いふるさとでありたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 363・97km²
- ◆ 人口 3万4116人
- ◆ 世帯数 1万3531世帯

- 〔将来都市像〕人あつたか、まちいきいき、自然つやや 伊豆市
- 〔まちの特徴〕伊豆半島の中央部に位置し、海から山までの幅広い高低差の中で豊かな生態系が育まれている
- 〔市町村合併〕平成16年4月1日、修善寺町、土肥町、天城湯ヶ島町、中伊豆町による対等合併
- 〔特産品〕山葵、椎茸、白びわ、黒米、



伊豆市長 菊地 豊



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

だれもが豊かさを感じられる ふるさとふくやま

瀬戸内の歴史と文化薫る、 ばらのまち

福山市は、広島県の東南部、岡山県に隣接し、瀬戸内海国立公園のほぼ中央部に位置しています。この地域は「備後地域」と呼ばれ、平成23年には周辺6市2町で構成される備後圏域連携協議会を発足するなど県境を越えた近隣自治体



勇壮な海上絵巻「鞆の浦観光綱網」

と強く結び付いています。本市は、高速道路網や重要港湾などの物流基盤が整い、電子部品、繊維製品などの製造業がバランスよく立地しています。単体としては日本一の粗鋼生産量を誇る製鉄所や、オンリーワン・ナンバーワンの技術力を持った企業が数多く集積し、備後地域の中核都市となつています。自然災害が少なく、就学前施設の充実など、活力ある産業集積と定住環境に恵まれた都市として発展してきました。

また、本市には、万葉集にも詠われ、潮待ちの港として栄えた「鞆の浦」があります。江戸時代に朝鮮通信使が「日東第一形勝」と称したその眺望は、今も往時の面影を残し、穏やかな海に浮かぶ島々の風景はまさに名画を観るかのようです。また、鞆の町並みには江戸時

代のものが残り、歴史に名高い旧跡や名所が数多くあります。そのほかにも、本市には国宝の明王院などの歴史・文化遺産が数多くあり、中でも、福山駅の目の前にある福山城の周辺は、美術館や歴史博物館、文学館など個性豊かなミュージアムが集まり、緑あふれる文化ゾーンとして人気のエリアになっています。

市の花「ばら」が咲き誇る5月に行われる「福山ばら祭」では、80万人以上の来場者を迎え、ローズパレードやばらのコンテストなど多彩なイベントが行われ、まちがばら一色に染まります。本市には、戦後復興の中で、市民が1000本のばら苗を植えたことから「ばら」のまちづくりが始まった歴史があり、「ばら」を協働のまちづくりのシンボルとして位置付けてい

ます。

チャレンジ！100周年

本市は、大正5年に市制施行して以来、1市26町村と合併を行い、平成の大合併ではさらに4町と合併をし、現在、人口約47万人となっています。

合併したことにより、海・山・川の自然、歴史、文化や産業などの豊富な地域資源が新たに加わり、市域全体に広がっています。これまで、市域全体の一体的な発展に向け、合併建設計画に掲げる施策を着実に実施するとともに、福山市立大学の開学や駅前広場の整備、中心市街地の活性化、協働のまちづくりの推進など、本市が将来にわたって発展し続けるために必要な都市基盤整備や住民自治の確立に向けた施策を推進してきました。

現在、3年後の平成28年の市制施行100周年に向けて、市民の皆さんのご意見を伺いながら、記念事業の基本方針を策定している

とところです。この大きな節目の年に、将来に夢と希望の持てる年にしたいと思っています。

そのため、本年度の重点政策に、「チャレンジ！100周年」として、5つの施策を位置付け取り組んでいくこととしています。市民の皆さんが協働のまちづくりを通して市政に参画することで、達成感や生きがいを感じることで、そのことがまちの豊かさにつながり、「100万本のばらのまちづくりの推進」をはじめ、「福山駅周辺の中心市街地の魅力の創出」「21世



ばらが咲き誇る「ばら公園」

紀を担う人材育成」と「持続可能なまちを創るための人材育成ネットワーク」などの新たな仕組みづくりとそれを支える人づくりを行います。その一つである「100万本のばらのまちづくりの推進」では、地域のばら花壇の整備やばら大学の開催、ローズロード整備への着手などを行うこととしています。市制施行100周年に向け、まちにばらの花とローズマインド(思いやり、優しさ、助け合いの心)があふれる、「100万本のばらのまち福山」の実現に向け取り組みます。

市民一人一人が主役のまちづくり

少子化・高齢化のさらなる進行とそれに伴う人口減少社会の到来など、本市を取り巻く環境は厳しさを増しています。いかなる困難な時代にあっても、時代の変化を見越した行政運営を行わなければならないとの考えから、本市では平成22年より「再(Re)」と称し、すべての施策についてゼロベースから見直しを進めています。

平成24年度からは、市制施行100周年となる平成28年度を目標準年次とする第四次福山市総合計

画後期基本計画をスタートさせました。

今後は、将来都市像「にぎわいしあわせあふれる躍動都市」の実現を目指し、後期基本計画を着実に推進することを通して、備後地域の中核都市として、市民の皆さんとともに「自分たちのまちは自分たちでつくる」という真の住民自治につながる

る施策を進めます。

市制施行100周年と、さらにその先の輝く未来に向かって夢のある、中国・四国地方の拠点都市にふさわしい躍動するまちを目指し、子どもから高齢者まですべての市民が豊かさを実感でき、市民一人一人がまちづくりの主役として活躍できる自主・自立のまちづくりを全力で進めていく決意です。

プロフィール

- ◆ 面積 518・14km²
- ◆ 人口 47万2935人
- ◆ 世帯数 19万6860世帯

〔将来都市像〕にぎわいしあわせあふれる躍動都市「ばらのまち福山」

〔まちの特徴〕海、山、川の豊かな自然に恵まれた、歴史・文化・産業のまち



福山市長 羽田 皓

〔市町村合併〕平成15年2月3日 内海町、新市町を編入合併、平成17年2月1日 沼隈町を編入合併、平成18年3月1日 神辺町を編入合併



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。